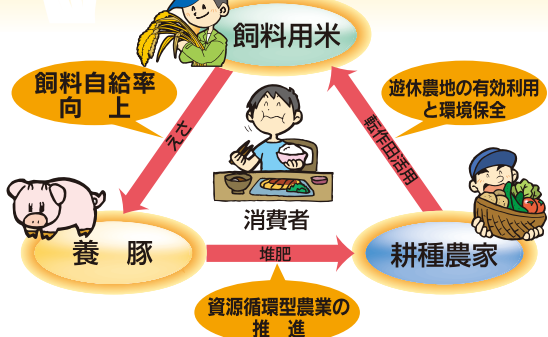


飼料用米を添加した 豚肉生産に取り組みました!



私たちポークランドグループは飼料自給化を目指し、減反の休耕田を活用して栽培した「飼料米」を配合した飼料を豚に与える取り組みをしています。

食の根源である農業を元気にしたい!
それが私達ポークランドグループの飼料用米活用へ取り組み理由です。

日本人の主食である「米」の生産現場でも様々な問題を抱えております。米離れによる消費量の減少、それに伴う生産調整(減反)による休耕田の増加、農業に従事する方の高齢化など、食料自給率の数字に追い付きを付けている現状です。

私達は、首都圏の生協組織である「パルシステム生活協同組合連合会」連携し、地元稲作農家に休耕田での飼料用米栽培を委託、秋田県で初めて米の家畜用飼料化、豚の育成試験に取り組みました。

飼料用米への取り組みは、休耕田を蘇らせ「田んぼ」として機能させることで地域農業を再生させ、「安全な国産穀物の供給」を可能にし、輸入穀物へ依存しない「飼料自給率の向上」などのメリットがある反面、飼料用米は買取価格が主食米よりも安い。稲作農家はコスト削減が求められるほか、いくら輸入トウモロコシが高くなったとはいえ、飼料用米の方が数倍高く、養豚農家はコストアップが避けられないなど、まだまだ課題が多いのも事実です。

今後、このような経営連携の取り組みがより多くの消費者の理解により確立され規模拡大が進めば農業の救世主となる可能性もあります。

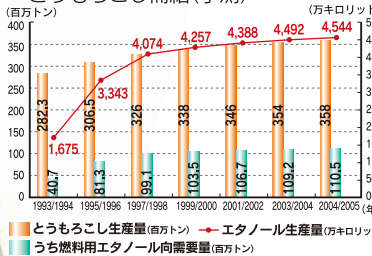
美しい水田風景を蘇らせたい... 私達は飼料用米へ取り組み意義を少しでも多くの消費者の皆さんに理解いただけるよう進めていきたいと思います。



飼料用米圃場



■アメリカの燃料用エタノール生産向け
とうもろこし需給(予測)



桃豚通信

発行所
有限会社 ポークランド 有限会社 十和田湖高原ファーム
有限会社 ファームランド 有限会社 小坂クリーンセンター
〒017-0201 秋田県角田市小坂字台作1-2 TEL 0186-29-4000 FAX 0186-29-4002
URL http://www.momobuta.co.jp



消費者の皆さんにご存知ですか?日本の食糧事情

39%。この数字は日本の食料自給率(H18年度概算で先進7か国のなかで最も低い数字となっており、私達が普段口にしている多くの食料は輸入に頼っているのが現状です。また、家畜が食べる飼料の自給率についてはもっと低く、牛・豚・鶏の平均で24.7%、H18年度概算。トウモロコシを主原料とする豚や鶏用の自給率はわずか10%と、原料となる穀物の殆どを海外(主にアメリカ)からの輸入に頼らざるを得ません。

穀物を輸入に依存する日本にとって、更に追い打ちをかけているのが昨今の原油高騰を背景に急激に拡大しているアメリカでのバイオエタノール産業。それに伴いエタノール原料となるトウモロコシ価格が高騰、その影響で大豆や小麦などの他の穀物が高騰しており、世界的な穀物不足が生じています。この問題は日本の畜産業界だけでなく、食品業界全般に波及しており、国内大手メーカーが連日値上げを発表しております。

■先進国の食料自給率

年	カナダ	フランス	ドイツ	イタリア	イギリス	アメリカ	日本
1965	155	115	115	115	115	115	39
1970	155	115	115	115	115	115	39
1975	155	115	115	115	115	115	39
1980	155	115	115	115	115	115	39
1985	155	115	115	115	115	115	39
1990	155	115	115	115	115	115	39
1995	155	115	115	115	115	115	39
2000	155	115	115	115	115	115	39

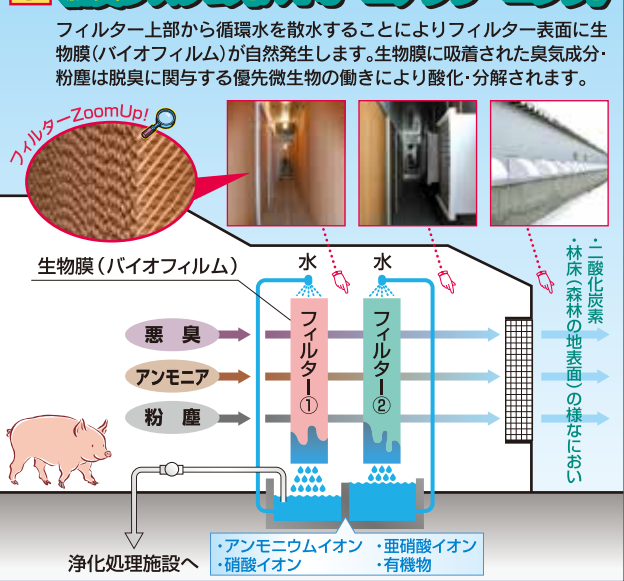
用語解説

(※1)
動物福祉(アニマルウェルフェア)とは
「快適性に配慮した家畜の飼育管理」と定義されています。この考え方はヨーロッパで広がりを見せており、原則として①「飼料と水を適正に与える」、②「施設や設備、温熱、空気など物理的環境によるストレスをきたさない」、③「病気をケガをさせない」、④「手荒に扱わない」、⑤「正常行動をさせる」などの5つの条件を満たすことと考えられています。

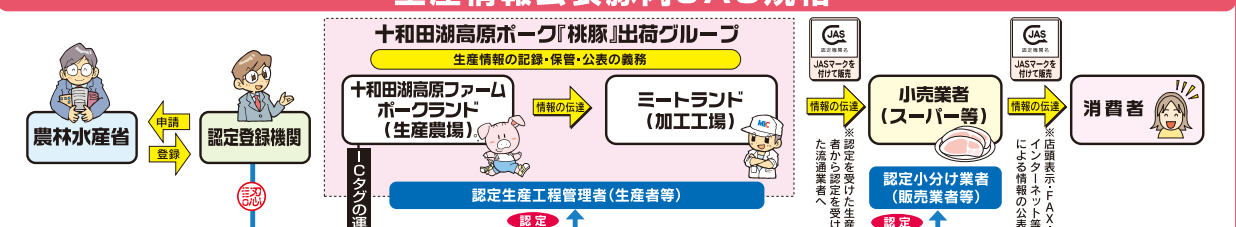
現在、生まれてから約60日以上は1つの豚房で18~20頭の飼育をしていますが、ファームランドでは350~400頭を1つの豚房としています。柵が無い豚舎での飼育なので、豚同士の争いも少なく、福祉的な管理が行えます。

(※2)
オートソーティングシステム(自動体重測定選別機)とは
オートソーティングシステムとは最大400頭を1豚房で飼育し、給餌スペースと休息スペースを柵で区切り、豚が餌を食べるために移動する際、計量器の上を通過させ体重を自動的に測定し選別するシステムの事です。

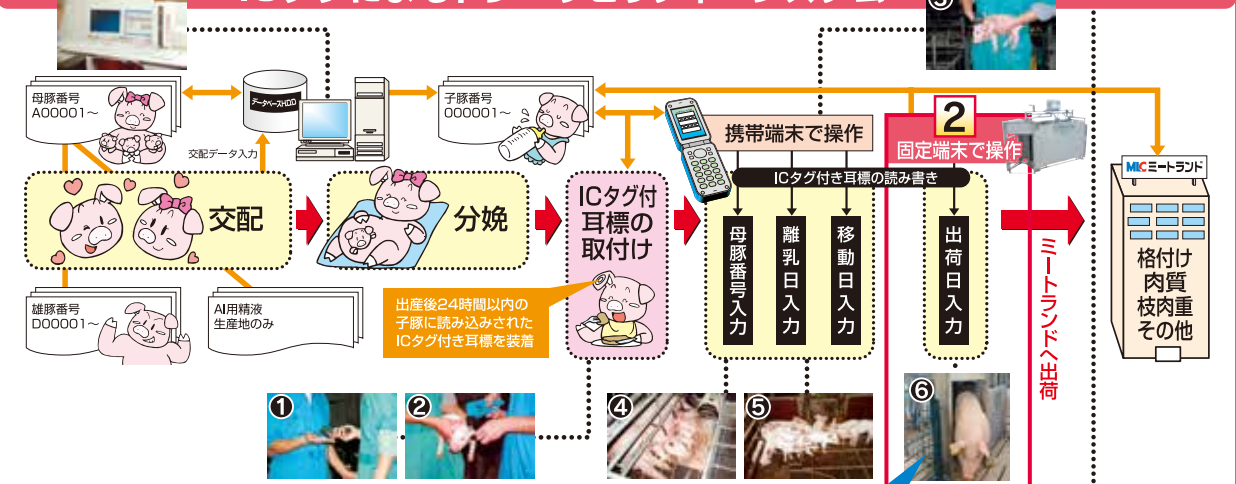
3 脱臭システム(バイオ・エアクリーニング)



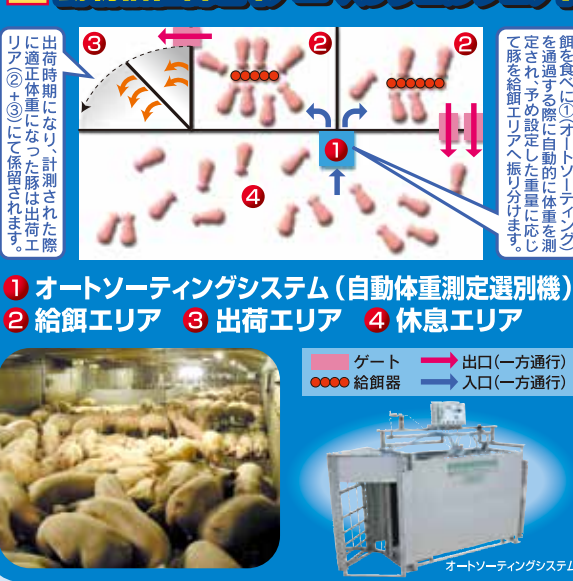
生産情報公表豚肉JAS規格



ICタグによるトレーサビリティシステム



1 動物福祉管理(アニマルウェルフェア)



ファームランドが完成。
いよいよ稼動開始!

ポークランド・十和田湖高原ファームに続く「第3農場」として平成18年8月から建設を進めていた「有ファームランド」が平成20年1月末に完成しました。

ファームランドの完成によりグループ全体の母豚の数は約4,800頭、平成21年度には1年間で出荷する桃豚の数は約13,000頭となり、SPF豚を生産する農場としては日本最大規模になります。ファームランドの最大の特徴は、

1 動物福祉(アニマルウェルフェア)※1
2 ICタグとオートソーティング※2
3 環境に配慮した脱臭システム※3

業界に先駆けて最先端技術を導入している点で、ポークランド・十和田湖高原ファームでの飼育ノウハウの結集です。

現在までの飼育状況は、19年8月に母豚や雄豚の導入を開始12月には待望の第1子が誕生!現在はいよいよ桃豚としての出荷が始まる予定です。

国内の畜産業を取り巻く現状は厳しさを増していますが、消費者の皆さんに安全で美味しい「桃豚」をお届けできるよう社員一丸となって取り組んで参ります。

社内の出来事

ファームランド本格稼働に向けて
総勢**10名**の新入社員が入社！



ポークランド繁殖部

山口征侯 (39歳) 19年4月入社
日本一の種付師を目指して頑張ります。



ポークランド繁殖部

相馬貴昭 (19歳) 19年4月入社
桃豚を「日本一のブランド豚」にすることを目標に頑張ります。



ポークランド繁殖部

斉藤和寿 (34歳) 20年1月入社
健康な桃豚を育てつつ、自分も社員として育って行きたいです。



ポークランド分娩部

藤江智之 (30歳) 19年4月入社
桃豚の更なるブランド向上を目指して頑張ります。



十和田湖高原ファーム繁殖部

阿部克洋 (36歳) 19年4月入社
愛情込めて桃豚を育てて行きたいと思います。



十和田湖高原ファーム繁殖部

村木潤次 (29歳) 20年1月入社
1日も早く先輩と同じ仕事が出来るように頑張ります。



ファームランド

福島寛崇 (21歳) 19年4月入社
豚のパワフルさに負けないよう頑張ります。



ファームランド

柏山 幸 (36歳) 19年11月入社
安全な桃豚を提供できるよう頑張ります。



小坂クリーンセンター

村木一裕 (37歳) 19年4月入社
お客様により良い完熟堆肥を提供できるよう頑張ります。



小坂クリーンセンター

木村駿介 (19歳) 19年4月入社
社会人の厳しさを痛感する毎日ですが、気持ちをしっかり切り替え仕事を早く覚えたいです。

ポークランド分娩部
♥ 黒澤孝志君夫妻 (19年2月結婚)
ポークランド分娩部
♥ 安保武晴君夫妻 (19年4月結婚)
十和田湖高原ファーム分娩部
♥ 石川真之介君夫妻 (19年4月結婚)
小坂クリーンセンター
♥ 高田優也君夫妻 (19年4月入籍)
十和田湖高原ファーム肥育部
♥ 田村洋介君夫妻 (19年6月入籍)

結婚ラッシュ！
5組が結婚！

私たちポークランドグループの取り組み

ポークランドグループでは平成16年からバイオベット(踏み込み発酵床)豚舎を利用した健康な豚の育成を試みております。バイオベットの利点としては、ベットの排泄された糞尿が微生物の力で発酵処理される事により処理コストが軽減される事、臭気などを抑制する効果などがあります。又、床材の原料である小坂クリーンセンターで製造しているB完熟堆肥を豚がついばむことで腸内の優良細菌が増え健康に育っています。

もう一つ、アニマルウェルフェア(動物福祉)の可能性を追求するため、400頭の豚を仕切りのない豚舎で飼つことで、放牧に近い飼育方法(準放牧)を模索しています。自由に餌を食べ、自分のお気に入りの場所にいる事や、床を掘り起こしたり、餌を探したりと、豚本来の欲求行動を満たすことのできるバイオベットは、イジメやケンカを減らし、ストレスのない環境づくりの一助になっていると考えられます。実際に茨城大学による「バイオベットにおける豚の行動調査」では、豚舎内で飼育されている豚に比べ、つたりと過ごしており、血液中のストレス物質の発生も軽減されたという結果も出ています。このような内容が家畜を飼育するうえでの福祉性向上に繋がっていると思います。

とは言えやるべき事はまだまだたくさんあります。床材への未利用資源の発掘や管理方法の向上、もっと豚が喜ぶ環境づくりなどなど…

ポークランドグループは今年も次世代型養豚のかたち作りに向けてがんばります。

バイオベット(発酵床)による桃豚の飼育実践と アニマルウェルフェア(動物福祉)の可能性の追求



豚舎内部

採食エリア

鼻を使い
堆肥をついばむ豚完熟堆肥を
利用した発酵床

新農地
栽培面積4ha!

獣の進入を防ぐ
電圧線も設置!
ほ場の周囲を
グルッと囲います。

今年から農場から500mほどのところで、遊休農地を開墾した新しい農地での栽培を始めました。メインとなる農地は、栽培面積4haと大きく、栽培品目はレタス、きゅうり、いんげんにんじん、辛味大根の5品目です。今年は栽培面積を拡大し、収量アップを目標に取り組んでました。スタートは順調に見えたのですが、春先の天候不順が影響し、作付けに大きな遅れが出てしまいました。

急遽パートさんを追加募集し、何とか作業の遅れを取り戻そうと頑張りました。しかし、作付けしてから問題は続発。雨が降らずレタスがカラカラになってしまったり、通常は虫が付かないレタスに虫が付く、廃棄処分にするしかなくなったりと、農業を使わない野菜栽培の難しさを改めて実感させられています。

販売を開始したレタス、きゅうり、いんげんにんじんは、他の産地と比べ「レタスは味が良い」、「にんじんは糖度がある」、「きゅうりは日持ちが良い」、「いんげんは柔らかい」等々、野菜の供給先から高い評価をいただきました。

〈ご報告〉実はきゅうりの圃場では、7月21日に熊が出没!!幸い、圃場にも作業員にも被害はありませんでした。



今年も栽培!
辛味大根

桃豚しゃぶしゃぶ用の葉味に最適な辛味大根を今年も栽培しました。

19年度の
主な行事

4月18日〜20日
食肉通信社主催
食肉産業展へ銘柄豚として桃豚を出展
(東京ビックサイト)

6月24日
地産地消イベント
「秋田サンデーフェア」へ桃豚を出展

6月27日〜28日
国内の先進地産地として韓国生協が視察

8月
代表豊下が甘利経済産業大臣より
「地域中小企業サポーター」を委嘱される



8月19日・20日
パルシステムユーアイコープより16名が参加し、産地交流会を開催



8月28日・29日
農林漁業金融公庫主催
アグリフードEXPOへ桃豚を出展
(東京ビックサイト)

11月10日
国産飼料用米添加の餌を給与開始

11月16日・17日
BMW技術全国交流会にて
アニマルウェルフェア動物福祉の
取り組みについて発表

1月
飼料用米添加の餌を給与した豚が出荷開始
(3月上旬まで)

